



七十年史の発刊に寄せて

学校長（第23代）河上昭悟

我が県立芦屋高等学校が創立70周年という節目を迎え、「芦屋七十年史」を発刊出来まことは誠に喜ばしく光栄に思います。今日まで芦屋の歴史と伝統を築いてこられた歴代の学校長をはじめ教職員の皆様の努力に深く敬意を表するとともに、本校を支えてくださった歴代PTAをはじめ同窓会の各位、更に県当局はもとより、県・市教育委員会各位、宮川町はじめ地域社会の皆様方に衷心より感謝申し上げます。

さて、70周年を迎えた芦屋の今日あるに思いを馳せ、過去の苦難を振り返り、その試練を乗り越えてきた不屈の精神の源流を再確認することは大切なことと思います。

本校の前身である県立芦屋中学校は軍靴の足音が次第に厳しくなる昭和15年4月に、阪神間の人口増加の中で地域住民の熱望によって創立されました。しかし、校舎は岩園尋常高等小学校の一部を仮校舎としての出発で、その後仮校舎の移転や空襲による焼失で校舎を転々としながら、現在の地に独立校舎が持ったのは昭和22年10月14日のことでした。実に8年に及ぶ流浪を経ての産みの苦しみでした。あしかび会員の方が当時を振り返って、芦屋駅から本山国民学校まで机と椅子を運んだことを鮮明に語っておられました。また、昭和21年に芦屋市青年学校に本部を移して、三部授業をしながら野球部が全国中学野球大会兵庫県予選に優勝し、全生徒・保護者・職員に大きな勇気を与え、学校存続の危機を乗り越えさせたことは特筆すべきことと思います。昭和23年4月、学制改革に伴い県立芦屋高等学校として発足し、御影高校との生徒交流を経て男女共学が実施されました。新制芦屋高校は「生徒の自発的活動により美しい学風と伝統を作るべきである。」との信念の下に芦屋高校の原型が築かれました。現在の「自治・自由・創造」の教育綱領の源流はこの草創期にあります。

新制芦屋高校発足を祝した記念祭は今年で62回を刻みます。また、県立西宮高等学校との定期戦も回を重ねて51回を数えます。その間、国道43号線の騒音問題、自治のあり方をめぐる自治会危機、阪神・淡路大震災での被災など、幾多の苦難を乗り越えながら今日に至っております。

創立70周年を経た現在、情報化、国際化、少子高齢化、高校進学率の上昇、家族のあり方など、我が国の教育をめぐる状況が大きく変化してきました。国では平成18年、約60年ぶりに教育基本法が改正され、これまでの普遍的な理念は大切にしながら、道徳心、自律心、公共の精神などが打ち出されました。本県では平成12年に「県立高等学校教育改革第一次実施計画」が発表され、平成21年より「第二次実施計画」が進行中です。本校も平成17年に普通科単位制に改編され6年目を迎えています。生徒自身の進路希望に合わせた科目選択と同時に、甲南大学・甲南女子大学との高大連携講座など多様な学校設定科目を置いています。

本校におきましても、創立70周年を機に、長い歴史と伝統を生かした特色ある学校づくりをめざし、名門「芦屋」の復活を教職員・生徒一丸となって邁進する所存です。

最後になりましたが、「芦屋七十年史」の編纂に携わっていただいた委員の皆様をはじめ、執筆いただいた皆様方にお礼申し上げ、発刊のことばといたします。